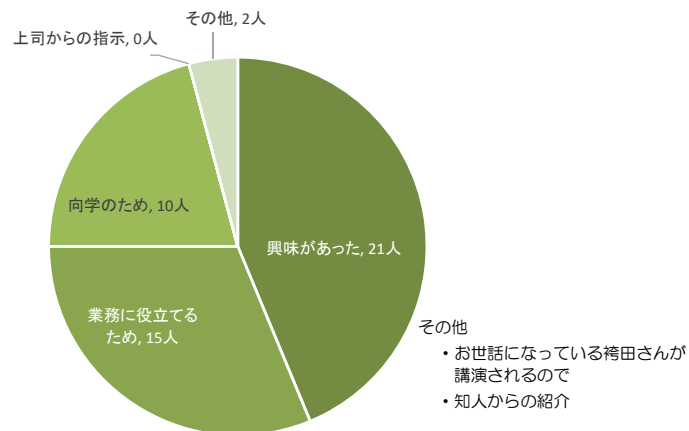


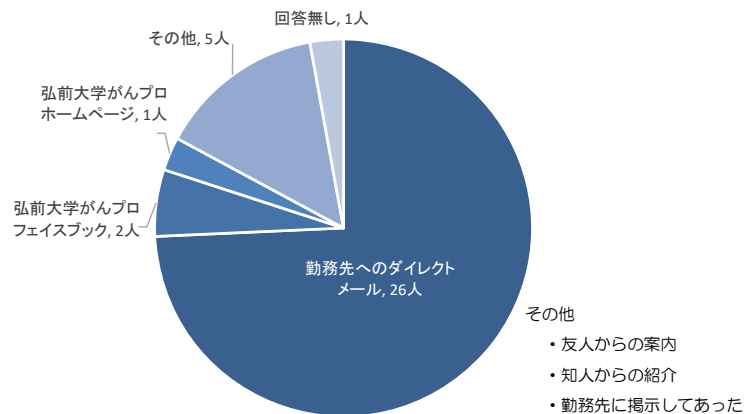
がんプロ公開シンポジウム  
「診断から看取りまで、切れ目のないがん医療の実現」  
アンケート結果

参加者 40 人中回答者 35 人 (回答率 87.5%)

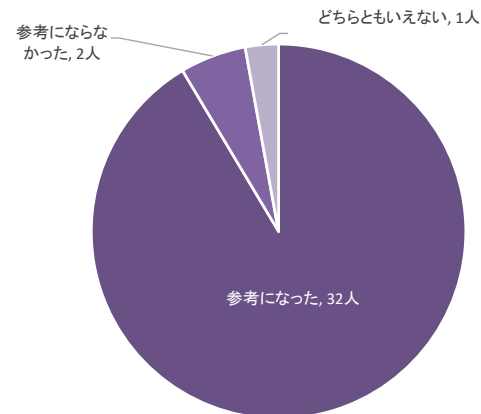
1. 今回参加の理由をお知らせください。(複数回答)



2. 今回のセミナーは何で知りましたか



3. 講演についてお答えください。



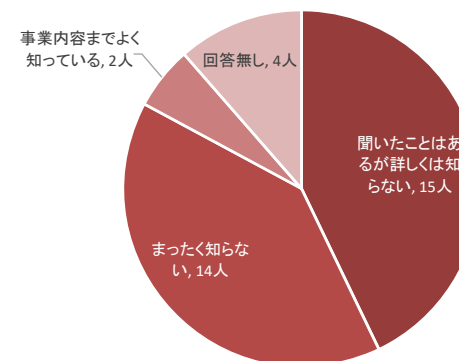
◆講演の感想などをお聞かせください。

- ・診断以降の問題の解決手段が色々あることがわかりました。がん専門相談員さん、社会福祉士さん、心強いみかたですネ！！
- ・医療者向けではないように感じた。
- ・アピアランスケアの重要性の理解が深まった。
- ・青木広美さんの「がん相談今昔物語」で、時代をさかのぼって事例を紹介していて、とても参考になった。また、告知の成功例だけでなく、告知しないことでどうなったか、についても実際の事例から学ぶことができ、よい講演が聞けてよかった。
- ・高谷真吏絵さんのアピアランスケアについて、「No Beauty, Yes Survivor」ががん患者にとって大事なキーワードであることができた。これからのがん患者とのかかわりで大切にしていきたいワードであると思い、とてもためになった。
- ・がん相談員今昔物語で、現在のがん医療との違いについてわかりやすい内容で話されていて、おもしろかった。
- ・アピアランスケアについて知らないことが多くあったので、知れてよかった。
- ・講演順序や内容等、とても分かりやすく勉強になりました。普段、医療費の話を受ける機会も少ないため、参考になりました。スライド資料があればうれしかったです。
- ・様々な視点から学ぶがん医療について大変勉強になりました。各職種担う役割は異なりますが、互いに手を取り合うことで、より密度の高い行き届いた支援が行えるものと思います。
- ・すべての講演内容がすばらしかったです。今後の業務において参考とさせていただきます。ありがとうございました。
- ・袴田先生のお話が大変興味深く参考、勉強になりました。
- ・医師だけではなく、NS、薬剤師、MSW など多くの医療スタッフが患者さんを支えるため活

躍されている姿を拝見することができ、とても参考になりなりました。共に頑張りましょう。

- MSW、薬剤師の想い気持ちが伝わってきました。
- 他職種との連携を深め合える場が、いかに大切だという事を再確認いたしました。
- 様々な職種の方のお話を聞くことができとても勉強になりました。ありがとうございました。
- 「がん治療にかかるお金のお話」が良かったです。
- ハローワークががん患者の就労の後押しをしていることも知らなかったので勉強になりました。
- 訪問薬剤師では、「(飲み忘れがあって)処方削除、残薬整理、薬をしっかり飲むようになって、めでたしめでたしではない」という言葉が印象的でした。
- 今まで患者さんとの一部分にしか関わってこなかったもので、診断から見取りまで他職種がどのように関わるのか考えたこともありませんでした。講演では自分ができること、他職種との関わりについて考えさせられました。知らないと使えない、を実感しました。
- がん患者が終末期までの暮らしに必要な情報を多く良かったです。
- 今まで知らなかったこと(訪問薬剤師や医療費について等)を学ぶことができたので、すごく勉強になりました。
- 皆さん、それぞれ、活躍されている仕事内容の発表がとても参考になりました。岡野さんの訪問薬剤師さんが、とても大切な役割をしていると思いました。
- 他院のつながりは、とても重要なことだと思います。このような機会をきっかけに、今後、開かれた弘前、青森県となって、共に患者さんを支えていきたいと思えます。
- 佐藤温先生の話が身にしみました。
- すでに知っている内容もあった。
- がん相談、がん医療に関する知識を様々な支点から学ぶことができた。質疑応答の内容もとても勉強になり、有意義な時間でした。ありがとうございます。
- 「がん」の治療が主役になっておらず、参考になる講演ばかりでした。患者が主役であり、何ができるか、どう生きるか、立場を理解する、理解してくれるサポート者がいて安心しました。大きい病院にだけ、サポート者がいることがとても残念ですが、ぜひ地域にでたり、せめて自治体 HP(小さい)にも出張してほしいと思えました。
- それぞれの講義がたいへん良かったです。勉強になりました。各テーマに沿って事例も交えていて、細かいお話をたくさん聞くことができ、今日参加して本当に良かったです。時間配分(各テーマの時間、休けいのタイミングなど)も良かったです。(飽きないし、疲れないし…)
- お金のことや制度の事で分からないことがある程度はわかりつつある。自分では分からない分、周りの協力が必要かと。医療にも言えることですね。
- とてもわかりやすく講演していただき、いろいろな知識を得ることができました。

#### 4.文部科学省 多様なニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン事業についてどの程度ご存知ですか



#### 5.今後がんプロ事業として実施してほしい研修会等があればご記入ください。

- 弘前だけでなく、他市町村でも行ってほしいです。院内はもちろん、訪看のスタッフ、薬剤師等、共通の認識を持ちたい。
- 人口減が加速している北東北で一次医療の崩壊も懸念される状況です。広大な地域でいかに医療を維持していくか、CCRC や、特区の設定など政策提言に関する取り組みも必要かと存じます。
- 特になし
- 本人、家族への意思決定支援(かかわり方を含め)がん患者の看取り支援の実情
- 多職種で関わるにあたって、病院内、病院外の薬剤師の話をもっと、もう 1 回ききたいです。(入院患者)(在宅患者、外来患者)また、Dr が NS に求めることや Dr の想いなどもききたいです。訪問 NS とか。
- 制度

#### 6.日々の業務で何か困っていることはありますか。

- 支援センターで持っている情報を病棟スタッフ、Pt、Fa で共有したい。自宅に帰りたい、転院したい希望があっても、その地域に利用できる資源がどれだけあるのかわからない。その為支援センターに案内するが、その後どうなっているのかわからない事が多く感じる。病棟としても不安を感じている Fa と相談したり、話を聞いてあげたいため、情報が欲しいです。(決まってしまうから不安を訴えてきたりする事が多く対応に困るので...)
- 退院先の選択(患者さんが病院への入院継続を希望される場合)
- MSW のスーパーバイザーをしていますが、毎年患者支援部門のマンパワー不足を痛感しています。
- ケアマネージャーや、認定確認のために必要な面談は理解出来ても、業務内に時間を割く事が困難な時が多い。
- 特になし
- 高齢者への告知を家族が行わないことで予後の生活支援が困難になっている。
- 当院で、就労支援、お金の相談に詳しい人が居ないので、大変困っています。他職種連携がうまくとれていない。
- がん患者さんが転院、退院する際、医療れんけい室に丸投げ状態に近いような気がして、病棟 NS がもっともっと、退院調整、地域とのれんけい、退院後のフォローなど、できることはやりたい！と思っていますが、できていない(そういう NS が少ない、居ない)状況...。もどかしいです。
- 制度に関して

#### 7.その他ご意見がありましたらご記入ください。

- 患者、Fa の意向を確認するための外部の情報も欲しい。各地域の訪看ステーションや、受けられるサービス(CV があると不可等)そういった一覧があると活用しやすいです。Dr に働きかけるための材料として、Fa に情報を提供したり、Pa の希望を引き出すきっかけとして活用できると思います。
- 秋田でも同様な取り組みができるよう頑張ります。
- 患者さんへの情報提供をもっと積極的にできるように行動して行きたいと思います。
- ありがとうございました。
- 大変勉強になりました。ありがとうございました。